

# 令和3年度 前期 自己評価書 (中学校)

篠山小中学校組合立篠山中学校

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

## 1 特色ある学校づくり について

評価項目	評価指標及び目標値	評価	学校による考察(◇) 改善方策(◆)	評価資料	個別評価	肯定率 4+3	アンケート結果(%)			
							4	3	2	1
小中一貫教育を目指した教育の推進	組合立学校や小中合同校舎の特色を生かした、小中一貫を目指した教育活動を推進している。	A	◇A評価と高く評価されている。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策をとった上で、参観日や生徒の様々な活動等を行ったことで、学校の様子を見ていただけたからであろう。しかし、「よくできている」と答えた地域アンケートの割合が、若干低くなっているのは、幾分、学校行事を縮小したためと思われる。 ◆後期は、稲刈り、篠南奉仕作業、運動会や文化祭・収穫祭など、地域と連携して行う活動が増えてくる。感染症対策を十分にとった上で、小中合同の活動の機会を増やしていきたい。	教職員1	A	100	83.3	16.7	0	0
	保護者1			A	100	70	30	0	0	
	目標値:教職員、保護者、地域の90%以上が肯定			地域1	A	100	62	38	0	0
ふるさと教育	地域の教育力を生かした「ふるさと学習」を推進し、郷土愛の育成に努めている。	A	◇生徒、保護者、地域、教職員、それぞれのアンケートでA評価を得た。保護者・地域共に「よくできている」と答えた割合が、若干低くなっているのは、新型コロナウイルス感染予防のため、地域の教育力を生かした学習や学校行事が減少したためであると思われる。 ◆2学期には、運動会や文化祭・収穫祭など、地域と連携して行う活動が増えてくる。また、総合的な学習の時間でも、防災学習やふるさと学習などで地域の教育力を生かす場面が多く取れると考える。これらを通して、感謝の気持ちや郷土愛の育成に努める。	教職員2	A	100	16.7	83.3	0	0
	生徒5			A	100	100	0	0	0	
	目標値:教職員、生徒、保護者、地域の90%以上が肯定			保護者2	A	100	40	60	0	0
家庭・地域との連携	各種たよりやホームページ等を通して、学校取組や生徒の様子を積極的に情報発信している。	A	◇今年度前期も、地域との交流が満足に持てなかったことから、できるだけ学校や生徒の様子を知っていただけるように、学校だよりや学級だより、ホームページ(以下HP)等をこまめに配信した。HPの接続者数を見ると、昨年と比べてもかなり増えており、地域の方々を含め多くの方が関心を持って見ていただいていることが分かる。 ◆各学級の学級だよりもこまめに発行しているのに、保護者からはあまり高く評価されていない。学年によって、発行回数にばらつきが要因にあるのかもしれない。発行数もさることながら、その内容も考えて、情報発信をしていきたい。	教職員3	A	100	100	0	0	0
	保護者14			A	100	40	60	0	0	
	目標値:教職員、保護者、地域住民の90%以上が肯定			地域7	A	100	92	8	0	0
学校運営協議会委員の意見	○ ふるさと教育で地域人材を生かすことは非常に良いが、圧倒的にマンパワーが不足する中で、今後継続させていくのは困難と思われる。しかし、地元を離れた人材を講師として招き、多様な社会に触れさせることで、将来的に地元を離れても、篠南の地に貢献・還元できる新しい発想を追究していくことも必要ではないか。 ○ 学校だよりやホームページの更新を常時行っており、子供たちの活躍がすぐ分かるのがうれしい。子供たちの日々の活動写真を毎日楽しみにしている。 ○ コロナ禍で稲刈りや運動会が実施できるかどうか不安である。	学校の対応	○ 生徒はふるさと篠南について、総合的な学習の時間を中心に地域内外の講師を招いて様々なことを学ぶように計画している。総合的な学習の時間の内容については、ふるさとの良さを再認識し、さらにふるさとに誇りを抱くことができるような教育計画の見直しに努める。将来的にも生徒たちが自ら、何かしらの形で地域に貢献できるようになってほしい。小中の9年間を見通して学べる本校の特色を生かしながら、学校運営協議会と連携・協働する中で、講師等地域人材の発掘と活用についても情報共有し、人材バンクづくりを行う。 ○ 極小規模の学校にもかかわらず、大変多くの方にホームページを見てもらっていることに驚く。週末の部活動の大会がある日も含め、今後もホームページをできるだけ毎日更新することを心掛け、本校の生徒の活躍を積極的に発信していきたい。	教職員3						
	保護者14									
	後期			地域7						

## 2 確かな学力の定着と向上 について

基礎学力の定着	生徒は、「読み・書き・計算」の基礎的・基本的な知識や技能が身に付いている。	A	◇生徒、保護者、教職員共に高い肯定率である。各教科での丁寧な取組に加え、今年度から導入された“一人一台端末”であるchromebookのドリル学習などを通して、基礎学力の定着を図ったためと思われる。 ◆これらの取組を継続していき、より効果的なものとなるよう、学習の振り返りをしっかりと行う。また、保護者の評価を3→4に上げるために、生徒一人一人の困り感に応じて、繰り返し粘り強く、基礎学習習慣や生活習慣の定着を目指して指導をしていく。	教職員4	A	100	16.7	83.3	0	0
	目標値:教職員、生徒、保護者の85%以上が肯定			生徒2	A	100	90	10	0	0
授業改善	教師は、生徒が自分の考えを分かりやすく表現した入り、物事を論理的に考えたりすることができるような授業を実践している。	A	◇今年度から“一人一台端末”が導入され、ICT機器を活用した「効果的な言語活動」に重点を置き、各教科で授業改善に努めたことから、教職員の評価が高い。生徒も、コンピュータを使った授業は楽しいと評価をしている。 ◆コロナ禍の影響があるため、授業改善がしにくい状況があるが、今後もICT機器を活用し、その中でもできる課題設定や表現の場の設定など工夫を図り、表現力・思考力・判断力を向上させていきたい。	保護者3	A	100	50	50	0	0
	目標値:教職員、生徒の85%以上が肯定			教職員4						
家庭学習の定着	生徒は、家庭学習の習慣が身に付いている。(中学生は90分以上)	A	◇特に、生徒・保護者共に高い評価になった。各教科で積極的に宿題を出してはいるが、“一人一台端末”を使った課題やドリル学習を家庭で行うことで評価が高くなったと思われる。しかし、2の評価をしている教職員・保護者も若干いる。 ◆まだ家庭学習の習慣が身に付いていない生徒に対して、個別指導を粘り強く行うとともに、見通しを立てて自主的な学習ができる生徒の育成に努めていく。また、保護者との連携を強化していく。	生徒6	A	100	66.7	33.3	0	0
	目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定			生徒6	A	100	50	50	0	0
学校運営協議会委員の意見	○ 基礎学力の定着では、生徒自身が達成感を持っていることに感心した。 ○ 基礎・基本を何度も繰り返すことが実践できている。 ○ 一人一台端末が導入され、いざという時は今後、家庭でも授業を受けられるようになることを期待している。	学校の対応	○ 今年度も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、積極的な授業改善を行っている。一人一台端末の活用により、生徒の思考力や表現力を高めことに役立っている。今後、基礎・基本を身に付けさせる上でもさらに、効果的な活用を探っていく。端末を活用するためのソフトウェアも進歩している。各教科の学習課題の解決に向けて、生徒が抱えている頭の中のイメージを可視化できるようなものもある。それらを活用して解決できるよう、日々の自己研鑽を重ねていく。 ○ 「家庭学習の習慣化」では、生徒ほど保護者や教師は評価していないことから、個々のマスターウィークの記録や保護者の感想を分析し、両者の評価の乖離を改善していく。	教職員6	A	83.3	0	83.3	16.7	0
	後期			生徒13	A	100	20	80	0	0
				保護者4	A	80	30	50	20	0
				教職員6						
				生徒13						
				保護者4						

## 3 豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進 について

道徳教育の充実	道徳科や特別活動等の授業を通して、自他を思いやる生徒が育っている。	A	◇生徒・保護者の評価が高い。道徳科や特別活動において、周りの生徒の考えに触れたり、自分自身を見つめたりする機会を通して、生徒自身が心の成長を感じている。しかし、教師の評価は「3」が多く、自身の取組が不十分だと感じている教員がいる。 ◆まず、道徳科や特別活動等における教員の授業力の向上を図るとともに、学校生活の様々な場面で、教師が生徒の言動に違和感を覚えたその時々、時機を逸せず粘り強く指導をしていくことが重要である。	教職員7	A	100	16.7	83.3	0	0
	目標値:教職員、生徒、保護者の85%以上が肯定			生徒5	A	100	100	0	0	0
挨拶・返事運動の推進	気持ちのよい挨拶・返事ができる生徒が育っている。	A	◇気持ちの良い挨拶や返事ができていると答えた生徒が大半であるが、保護者、地域、教職員の評価は若干厳しい。これは、挨拶をする側とされる側の受け取り方の違いではないかと推察できる。“できている”と生徒自身が感じているほどには、周囲は評価していないと考える。 ◆コロナ禍もあり、マスクで表情や声が届きづらい昨今ではあるが、昨年度に比べると挨拶も先にしてもらえるようになったとか、しっかりと声になったなどのプラスの反応をいただいている。今後も全教育活動の中で機会を捉えて、コミュニケーションの基本となる挨拶の大切さを指導していきたい。	保護者9	A	100	80	20	0	0
	目標値:教職員、生徒、保護者、地域住民の90%以上が肯定			教職員7						
				生徒5						
				保護者9						
				教職員8	A	100	0	100	0	0
				生徒8	A	100	90	10	0	0
				保護者6	A	90	50	40	10	0
				地域3	A	100	50	50	0	0
				教職員8						
				生徒8						
				保護者6						
				地域3						

### 3 豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進（前ページのつづき）

後始末運動の推進	生徒は、使用した物をきちんと片付ける習慣が身に付いている。	C	◇生徒からは肯定的な評価が多いのに対し、教職員と保護者の満足度は低めである。学校生活の中でうっかりと後片付けが不十分であったり、他の誰かを頼ったりするなど、受け身的な取組が見えたことが影響していると考えられる。 ◆「物の後始末」は次の行動の準備や、自身の思考を整理したり、振り返りになったりするため大切な行動である。生徒が主体的に行動できた際にはタイミングよく褒めること、また、家庭と連携しながら習慣化につながるように粘り強く指導を続けていきたい。	教職員9	C	66.7	0	66.7	33.3	0
	目標値：教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定			生徒11	A	100	40	60	0	0
健康な生活習慣の確立	生徒は、早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	A	◇生徒・教職員は高い評価を出しているが、保護者の評価は低い。マスターウィークの調査では、100%の家庭で朝食が習慣化されている。早寝早起きは若干できにくくなっている。 ◆マスターウィーク調査を継続し、分析・考察した結果を生徒への指導にフィードバックさせたい。家庭への啓発として、分かりやすい「保健だより」を発信し、家庭との連携を図り、健康的な生活習慣の形成を目指していく。	教職員10	A	100	66.7	33.3	0	0
	目標値：教職員、生徒、保護者の85%以上が肯定			生徒14	A	100	100	0	0	0
体力づくりの推進	体育の授業や部活動等により、生徒の体力・運動能力が向上している。	A	◇生徒は全員運動部活動(ソフトテニス部)に所属している。週5日程度、平日2時間、休日3時間程度の練習を行っている。練習や大会において体調を崩す生徒もおらず、体力、精神力も向上している。また、各種大会で好成績を残し、技術面の向上も見られた。 ◇1学期に行った新体力テストにおいてもほとんどの種目で、県・全国平均を上回っている。また、体力の向上を目指し、朝自立的に持久走に取り組む生徒もおり、自己の体力への関心も高まっている。 ◆今後も、さらに柔軟性、投力、持久力の向上を目指し、体育の授業や部活動等で取り組んでいきたい。	教職員11	B	83.3	33.3	50	16.7	0
	目標値：教職員、生徒、保護者の90%以上が肯定			生徒9	A	100	100	0	0	0
学校運営協議会委員の意見	○ 全国レベルのソフトテニス部の活躍は、生徒個々の努力はもちろんであるが、学校の先生方の熱心な指導・サポートがあってこそその結果だと思う。 ○ 体力づくりはソフトテニスだけでなく何かあればよい。 ○ 「後始末」で今回も低い評価が出ているが、自宅での保護者自身の子供さんへの関わり方が重要だと思う。	学校の対応	○ 「後始末」は、単に物を片付けることではなく、自己を振り返り反省し、次のステップに進む大切な行動につながることを呼び掛け、学校と家庭が連携して粘り強く指導に当たりたい。 ○ 本校の生徒は体の柔軟性が課題であり、ちょっとしたことで体を痛めたり、故障したりしやすい。体育の授業でも導入部分に柔軟体操を取り入れ対応しているが、家に帰ってからの個々の努力も促したい。また、体育の授業においても様々なスポーツに親しませる工夫をしていきたい。	保護者11	A	100	60	40	0	0
	後期			教職員11						

### 4 健全育成の推進 について

規範意識の醸成	「決まり」や「マナー」を遵守し、自立心と規範意識のある児童生徒に育っている。	A	◇いずれの立場からも、全体としてA評価となっている。生徒の学校生活は大変落ち着いており、生徒間のトラブルや長期欠席に陥っている生徒も皆無である。生徒は善悪の判断がきちんとできており、自分を律しながら生活できていると言える。一方で“マナー”の点からは、その場の雰囲気や軽率な言動をとる場面があり、今後とも丁寧な指導が必要である。 ◆場にそぐわない言動があった際には、タイミングを逃さず、その場で指導することを大切にしたい。また、学校生活の様々な場面で、生徒自らが考えて適切に行動できるように指導をしていきたい。時間は掛かるが、生徒自身のレベルアップを図るために必要である。	教職員12	A	100	0	100	0	0
	目標値：教職員、生徒の90%以上が肯定			生徒10	A	100	80	20	0	0
個に応じた指導の充実	教師は、生徒一人一人の教育的なニーズに応じて生活や学習上の困難の克服を目指した指導・支援に努めている。	A	◇ほとんどの教職員が4の評価をしており、少人数の良さを生かして、日々個別の支援に取り組んでいると言える。 ◆本校の良さは、少人数であるがゆえに一人一人の生徒の状態を見守りやすいこと、また、丁寧に指導・支援ができる点である。今後も、別の指導・支援が成果につながるよう、各学級・各教科で振り返り、改善を図っていきたい。」	保護者7	A	90	40	50	10	0
	目標値：教職員の90%以上が肯定			教職員13	A	100	83.3	16.7	0	0

4 健全育成の推進（前ページの続き）

生徒指導の充実	<p>教師は、生徒一人ひとりと教育相談などを通して悩みの把握に努め、いじめを絶対に許さない、見逃さない学校づくりに努めている。</p>	A	<p>◇「いじめはいつどんな状況でも起こる」ことを念頭に置き、迅速な対応を心掛けている。生徒間に学年の違いを超えて仲良く生活しようという雰囲気があることに加え、教職員が様々な視点から生徒理解に努めていることも大きなトラブルにはつながっていない。 ◆今後も、毎月行っている「生活アンケート」や「あゆみ」を通じた日記指導、そして、生徒との日々のコミュニケーションの中から情報を集めていく。生徒にとって学校が安心できる居場所となり、教職員に気軽に悩みを相談できるような関係性・環境を作りたい。</p>	教職員14	A	100	83.3	16.7	0	0
	<p>目標値：教職員、生徒、保護者の90%以上が肯定</p>			生徒4	A	100	100	0	0	0
学校運営協議会委員の意見	<p>○ SNSでのトラブルなど、表面に見えにくい問題があるかもしれない。インターネット活用がこれまでよりも身近になっているからこそ、ちょっとした子供の変化に気が付くように学校だけでなく、周囲の見守りも必要である。</p>	学校の対応	<p>○ 10名の全校生徒は、学校を欠席することなく元気に学校生活を送っている。毎月実施している学校生活アンケートでも、心配な様子を記述する生徒は皆無である。しかし、今やインターネットによって様々な人とつながれることや、まして思春期の多感な時期であることを考えると、しっかりアンテナを張って情報収集や指導に努めたい。生徒との日々のコミュニケーションや日記指導、毎月実施している小中合同の教育相談などを利用して、きめ細かな指導や対応を行っていく。</p>	保護者10	A	100	50	50	0	0
	後期			教職員14						
				生徒4						
				保護者10						

5 安全・安心な教育環境の整備、教職員の資質・能力の向上 について

安心・安全な教育環境の整備と充実	<p>学校は、災害等に対する安全教育の推進を行い、「自分の命は自分で守り切る」ことのできる児童生徒の育成に努めている。</p>	A	<p>◇1学期は地震対応の避難訓練、不審者対応の避難訓練を合わせて3回実施した。そのうち2回は事前予告なしでの訓練を行っているが、生徒の避難行動は迅速であった。また、今年度は年度当初に、生徒一人一人に非常持出袋を準備させたり、中身についても、1年生の学級活動や国語の授業で取り上げて吟味させたりしたことが、全体として高い評価につながったと考える。 ◆ここまでの避難訓練は、生徒が自教室にいる時間帯に行っていた。今後は特別教室での授業中、休み時間中等、様々な場面でも確実に避難ができるように鍛えていきたい。また、11月には、地域の方々と合同の避難訓練を計画している。避難から避難所での生活にも範囲を広げながら、自らの安全を確保できる生徒を育成していった。</p>	教職員16	A	100	83.3	16.7	0	0
	<p>目標値：教職員、生徒、保護者の90%以上が肯定</p>			生徒12	A	100	100	0	0	0
教職員としての資質と指導力の向上	<p>信頼される教師を目指し学力向上、生徒指導等についての研修や自己研鑽に努めている。</p>	A	<p>◇4の評価が多く、常に試行錯誤をしながらの実践が高評価につながったと考える。特に、今年度は教科書が変わり、指導内容が大幅に変更になり、ICT機器を使った授業を展開するなど、教職員同士で研修の機会を多く持ったため、お互い分からないことを聞き合う雰囲気ができている。 ◆今後も引き続き、新学習指導要領に対応した指導の研究を行いながら、「へき地教育研究会」に向けた研修を、小学校と足並みをそろえて行っていきたい。</p>	保護者13	A	100	50	50	0	0
	<p>目標値：教職員の90%以上が肯定</p>			教職員17	A	100	83.3	16.7	0	0
学校運営協議会委員の意見	<p>○ 南海トラフ地震等、いつ大災害が起きてもおかしくない中、学校だけでなく、家庭や地域でも意識を高める必要がある。 ○ 親子、地域ともに学ぶ活動があるとよい。</p>	学校の対応	<p>○ 実効性のある訓練を通して、特に「自助」の意識やスキルを高めたい。これまでの避難訓練は、授業中などの生徒が教室で過ごし、教師の判断の下で避難場所等を指示する形態で行っていた。2学期以降は休み時間など、生徒が自分自身で身を守る行動をとり、避難を判断する状況下でも行っていきたい。また、11月21日(日)に、保護者・地域住民と一緒に防災学習会を開催し、地域とともに防災意識を高めたい。学校運営協議会委員を中心に工夫改善し、是非、今後も継続した活動にしていきたい。</p>	教職員17						
	後期									